

新規登録候補地の概要

登録湿地名	所在地	面積(ha)	湿地の特徴	保護の形態	登録基準	湿地の概要
涸沼	茨城県銚田市、茨城町、大洗町	935ha	汽水湖、カモ類の渡来地、ヒヌマイイトンボ等の生息地	国指定鳥獣保護区特別保護地区	基準2: 絶滅のおそれのある種や群集を支えている湿地 基準4: 動植物のライフサイクルの重要な段階を支えている湿地。または悪条件の期間中に動植物の避難場所となる湿地 基準6: 水鳥の1種または1亜種の個体群で、個体数の1%以上を定期的に支えている湿地	満潮時には10km下流から那珂川と涸沼川を介して海水が流れ込む天然の汽水湖である。冬期にスズガモ等水鳥が飛来する東アジア地域における重要な越冬地及び中継地となっている。
芳ヶ平湿地群	群馬県吾妻郡中之条町、草津町	887ha	火山性の特異な特徴を有する中間湿原、淡水湖、火口湖	国立公園特別地域	基準1: 特定の生物地理区を代表するタイプの湿地、又は希少なタイプの湿地 基準4: 動植物のライフサイクルの重要な段階を支えている湿地。または悪条件の期間中に動植物の避難場所となる湿地	火山性の特異な特徴を有する湿地群(草津白根山の火山活動により形成された難透水性土壌、凹地及び火口に発達した中間湿原、淡水湖及び火口湖)で、日本固有種のモリアオガエルの最高標高の繁殖地である。
東よか干潟	佐賀県佐賀市	218ha	干潟、シギ・チドリ類の渡来地	国指定鳥獣保護区特別保護地区	基準2: 絶滅のおそれのある種や群集を支えている湿地 基準4: 動植物のライフサイクルの重要な段階を支えている湿地。または悪条件の期間中に動植物の避難場所となる湿地 基準6: 水鳥の1種または1亜種の個体群で、個体数の1%以上を定期的に支えている湿地	有明海の北岸に位置し、河川の河口と海岸に発達する泥干潟である。湾奥部に位置するため、中央黒潮生物地理地区にありながら、黒潮(日本海流)の影響が小さく、汽水的性格が強い。秋から春にズグロカモメやクロツラヘラサギ等のシギ・チドリ類が飛来し、東アジア地域における重要な渡りの中継地及び越冬地となっている。
肥前鹿島干潟	佐賀県鹿島市	57ha	干潟、シギ・チドリ類の渡来地	国指定鳥獣保護区特別保護地区	基準2: 絶滅のおそれのある種や群集を支えている湿地 基準4: 動植物のライフサイクルの重要な段階を支えている湿地。または悪条件の期間中に動植物の避難場所となる湿地 基準6: 水鳥の1種または1亜種の個体群で、個体数の1%以上を定期的に支えている湿地	佐賀県南部の有明海北西岸に位置し、河川の河口と海岸に発達する泥干潟である。湾奥部に位置するため、中央黒潮生物地理地区にありながら、黒潮(日本海流)の影響が小さく、汽水的性格が強い。秋から春にかけてズグロカモメやチュウシャクシギ等のシギ・チドリ類が飛来し、東アジア地域における重要な渡りの中継地及び越冬地となっている。

登録区域拡張候補地の概要

登録湿地名	所在地	面積(ha)	湿地の特徴	保護の形態	登録基準	湿地の概要
慶良間諸島海域	沖縄県渡嘉敷村、座間味村	8,290ha	サンゴ礁、タイマイ等のウミガメの産卵地	国立公園海域公園地区	基準1: 特定の生物地理区を代表するタイプの湿地、又は希少なタイプの湿地 基準2: 絶滅のおそれのある種や群集を支えている湿地 基準3: 生物地理区における生物多様性の維持に重要な動植物を支えている湿地 基準4: 動植物のライフサイクルの重要な段階を支えている湿地。または悪条件の期間中に動植物の避難場所となる湿地	日本で確認される造礁サンゴの62%の種数が生息する代表的なサンゴ礁域。海域の海中には、テーブル状、枝状、角状、塊状、被覆状等の造礁サンゴが高い密度で分布している。スズメダイ類、チョウチョウウオ類、ペラ類等のサンゴ礁特有の魚類が豊富に生息し、夏にはアオウミガメ等が産卵のために数多く訪れている。平成17年に沖縄海岸国定公園の海中公園地区(現:海域公園地区)353haがラムサール条約湿地として登録された。平成26年3月5日に海域公園地区が拡張されたことにあわせて、条約登録区域を拡張するもの。

我が国のラムサール条約湿地
 箇所数: 46箇所 → 50箇所 (4箇所増加・1箇所拡張)
 面積: 137,968ha → 148,002ha (10,034ha増加)